

ベンチャー・SUMIDAの“卒業生”が 墨田区内にとどまって事業を継続

墨田区両国二丁目の「東京ニット会館」に「一月から、ベンチャー企業が次々と入居することになった。借り手は都の創業支援施設「ベンチャー・SUMIDA(同区本所三丁目)から来る。といってもトラブルで追い出されたのではなく、施設の入居期間満了後も墨田に残り、活動を続けたいという

「意欲のある若手企業家だ。一月にいちはやく引っ越したのは有限会社かなや設計の金谷直政さん(41)。病院・福祉施設の企画・設計を専門とする一級建築士で、床暖房の仕組みを壁面に応用した「壁冷暖房」の開発で起業し「ベンチャー・SUMIDA」に入居。入居期間終了が迫り移転先を探している。本来一団体がフロアを借りる「ニット会館」だが、金谷さんが六部屋分を何組かの事務所として借りる提案をしたところ、ベンチャー・SUMIDAに入居していた二人が賛同し、四階部分が埋まることになった。

んも参加して昨年夏から「羽ばたくベンチャー・SUMIDA」の会が発足し、施設公開や本所中学校の生徒の職業体験受け入れなど外部への働きかけを始めたところで、都中小企業振興公社も「自発的に会が発足して取り組む動きは、ベンチャー支援施設として理想的な形」と好意的だ。

入居企業を募集 ベンチャー・SUMIDA

「ベンチャー・SUMIDA」では入居企業を募集している。期間は原則二年(最大三年)で賃料は無料だが、一平方メートルあたり千八百十五円の共益費が必要。電気代、通信料は自己負担。申し込みは一月三十一日か



「羽ばたくベンチャー・SUMIDA」の会の金谷さんは、今月から「東京ニット会館」(墨田区両国)を拠点に活動している

もいるため、入居期間が終わると墨田を離れる人も多かった。家賃支援がなくなっただけでなく、いかに手ごろな事務所を借りられるかは入居者に共通の課題。金谷さ

ら二月十日まで(午前九時～午後五時)。審査を経て三月上旬に入居者が決まる予定。問い合わせは都中小企業振興公社新事業創出課